

「馬場小室山遺跡フォーラム」第77回ワークショップ

【 原動力！パブリック・アーケオロジー2017 】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かわり」と未来への新たな挑戦

馬場小室山遺跡研究の新展開では限界(知識・経験・思考・領域等)からの知的解放を目指します！

＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の遠隔生業往還と広域流通社会からの大転換とは？—＞

新展開1	「ムロさま」の 「限界領域」打破	馬場小室山遺跡「第51号土壇」から展望する縄文時代晩期以降の葬式と土器社会論—「ムロさま」の「累積型改新土坑墓」から探る「追葬型再葬壺棺墓」への途— (ムロ1)寺野東遺跡の「積葬墓」(「SX036埋設土器遺構」)に注目 (ムロ2)青森県の「再葬壺棺墓」／列島晩期の再葬動向／「金田一型土器棺墓」／土井ヶ浜遺跡の「弥生再葬墓」 (ムロ3)福島県鳥内遺跡の晩期終末の再葬壺棺墓と弥生時代前期の合口土器棺による「積葬墓」の土器社会論 (ムロ4)鳥内遺跡の弥生時代前期から中期初頭の再葬壺棺墓と北方砂沢式系文化と中部条痕文系文化による土器社会論的交替劇の様相
新展開2	「オムちゃん」から 「ムロさま」への 「限界知識」打破	土偶から土面／土版／人面文土器の関係、そして容器形土偶への「台式」化とその意義 (オム1)泉坂下人面イデオロギーの拡散ネットワーク (オム2予告)粗製土器への人面文は「新たなイデオロギー」の台頭 (オム3予告)晩期の人面文土器を契機・原型とした「台式」化
新展開3	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破	「製塩土器」形態の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」 (シオ1)定住制社会から生業往還としての製塩遺跡へアプローチ (シオ2)アマモやヨシ(アシ)の「草木灰」は濃縮工程での使用か？ (シオ3)製塩遺跡の操業タイプ(短期型と長期型)と燃料問題 (シオ4)下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離現象にあり！ 枯れたアマモを特定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び天日と地熱(熱砂)利用の採鹹工程に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺墓」への流通実態(上越周辺北信経由)解明 (タマ1)熊谷市飯塚南遺跡の土壇出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群

1.【第4回「山田湾まるごとスクール」】： 明日につながる記録集を年始活動として編集集中！

- ・「お米サンタ活動」は約12万円の予算で執行しました。スクール参加者の寄付金以外に2016年度会費を充当予定です。記録集は後日配布となりますので、『さいたま・水とみどりのアカデミーⅣ 平成27年度講義要約』を今回配布し、会費納入への御礼とします。

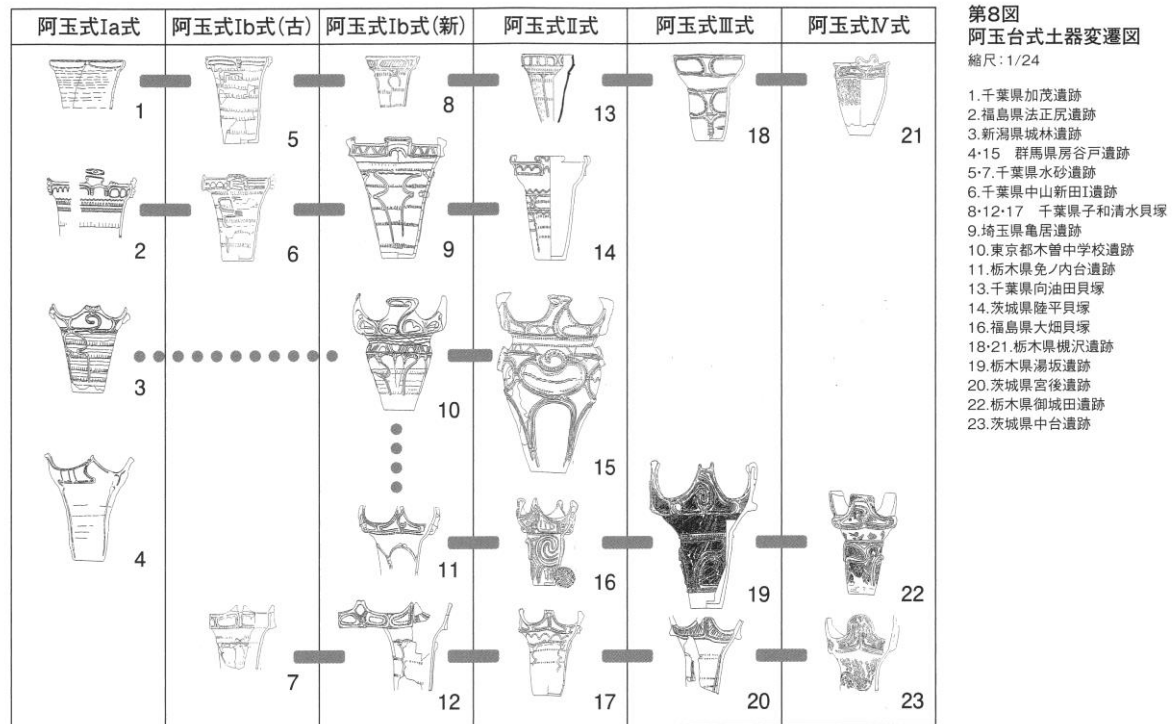
2.【馬場小室山遺跡deインスレーション】： 街づくりにおける遺跡の活用を環境と芸術の両面からアプローチ！

- ・5/4(みどりの日)に「青空考古学教室」としてアイダ設計によりゴミ扱いされ馬場小室山遺跡から廃棄や投棄された大量の遺物を素材の主役とし、「捨てられるとゴミ、護り伝えるのが街づくり！」との理念で進めます。
- ・護り伝えるためには何か表現が必要になります。救済した縄文土器を活用した現代芸術を目指したいと思いますが、プロセスの計画性とセンスの意外性の両立を期待します。
- ・ゴミ扱いされた資料を活用する姿をインスレーションしたいと思います。現代ゴミの分別収集と相対化し、「分類という表現」を実践するインスレーションを目指します。「初めての分類」から始め、「明治時代の分類」、「ガイドブックで分類」、「実物標本で分類」等々、「分類とは芸術なり！」という参加型インスレーションを実現しましょう。

3.【縄文時代中期の馬場小室山むら】： 高級狩猟民社会におけるマメ類など素朴農耕の位相を求めて！

- ・縄文時代中期の検討はこれまで基礎作業にとどまり、その後の対応が少々手薄でした。馬場小室山遺跡は中期集落の一般動向を顕著に示しており、中期中葉における発達動向には地域的な特徴があります。

- ・馬場小室山遺跡の中期中葉を考えるためには武蔵野台地系の「勝坂式」を中心とした変遷、下総台地系の「阿玉台式」を中心とした変遷(以下の＜塚本師也氏による「阿玉台式」変遷図＞参照)、そして南奥系の「大木8a式」を中心とした変遷、それらの交流によるクロス(混血)現象についての学びが必要になります。



- ・そこで最近報告された茨城県常陸大宮市滝ノ上遺跡からは充実した「大木8a式」期土器群が出土しておりますので、中期中葉の文化系統の複雑な交流動態に注目した学びを進めたいと思います。
- ・「オムちゃん」研究からの問いかけからは、同じ「土器型式」のむらにもかかわらず、**土偶のある社会(武蔵野台地)とそうでない社会(馬場小室山遺跡など大宮台地)の関係**に目を向けます。これは**マメ類の有無**にも共通した視点でもあり、**高級狩猟民にとり、素朴な農耕は社会的結合から見て生業文化としては下位に位置付けられるリスク・マネジメント**となる可能性が高く、四季を通じた山海の恵み入手に不安定な地域の「マメバ」頼み！が由来と想定します。

4. 【「ムロさま」研究からの問いかけ(5)】： 方形周溝墓以前の注文の多い「ハカバ」変遷の真相を探る！

- ★「泉坂下人面イデオロギーの拡散ネットワーク」を(ムロ2)から(オム1)へ移動した都合で、前回は(ムロ4)になります。
- ・前回の再葬壺棺墓は「阿武隈文化」の弥生式前期から中期前葉にかけての年代的変遷と文化系統の動態を鳥内遺跡の資料により議論しました。その結果、在地の弥生式前期を勝る勢いで北方系「砂沢式」との交流が顕著となり、しかもその継続年代は前期末葉までは続かず、その後は磨消縄文の発達に譲り、中期前葉には中部(含む東海)地方の条痕文文化との交流が発達する様相が突出します。
- ・そこで今回は、**中部から北関東西部における前期の再葬壺棺墓**として、長野県林里遺跡・刈谷原遺跡・針塚遺跡、群馬県藤岡市沖Ⅱ遺跡を吟味します。長野県では大城林遺跡の木棺墓も参考とします。東関東や南奥と関係の深い前期の再葬壺棺墓として田川流域の栃木県芝工業団地内遺跡にも触れます。
- ・こうして東日本弥生式前期の「ハカバ」である再葬壺棺墓に親しんで頂いてから、いよいよ縄文時代終末の「ハカバ」について議論することになります。

5. 【「シオ(塩)もん」研究からの問いかけ(5)】： 宇都宮市刈沼遺跡の「製塩土器」に注目！

- ・宇都宮市刈沼遺跡からは小山市寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出されています。鬼怒川流域であることから口縁部形態は下布田遺跡の「製塩土器」形態とは大きく異なり、古鬼怒湾系の口縁部水平ヘラカットが定着しています。詳細は報告書の刊行を俟って触れたいと思います。
- ・1年草のアマモが枯れて岸边に打ち上げられた風景は、干し草燃料備蓄の「塩草場」が想定されます。

6. 【その他情報交換など自由な意見交換とワイン・アーケオロジー】： 準備や参加にご協力ください。

6-1. コムナーレ・フェスティバル(3/4(土)・5(日))

- ・3/5(日)に浦和駅前コルソ9Fにてイベント会場にてワークショップを実施します。

6-2. お花見ワークショップ(4/2(日))

- ・見沼たんぼの桜並木沿いの遺跡巡検と学習会を予定。

6-3. その他